



## II 造林のはなし II

土地に適した樹種を

杉造林一辺倒は不利

来春の造林時期も迫つて参り、既に地帯作業におかかりになつた方

あります。が造林地に木を植栽する前にもう一度自分の山は何が適するか考えなおしてみましょう。

ここ数年間の大根占町の造林樹種の大半が杉林となつております。

これは全国的に見られる傾向でそ

の理由は材価が他の樹種とくらべ不意ながら伐採せねばならぬようになつたことも杉造林一辺倒の理由と思われます。しかし、第一の理由とされる材価の問題は最近

松材の価格が杉材の価格に極めて近づいています。

松の造林は将

問屋と仲買人『ソデの下』取引

八割が畜産商の手で

いつば農家が売る和牛や馬や豚など

ういうルートを通じて消費者の手に渡るのだろうか。それら

ようにして決めるのだと

うか。大体全国の相場の基準となつて

いる東京芝浦屠場の例により話をすすめよう。

先ず農家から消費

者へ渡るルートを図示しよう。(図を見て下さい)。農家が手放す家畜のうち、その八割は畜産商の手

を通り農協のいわゆる共販ルートにつ

てているのは二割である。(農家→農協→家畜商といふルートもある)

と家畜を取引する方法には、だいたい次の三通りあるようだ。

第一は賣取りである。これは主に問屋が現地で現金で一頭いくらとして賣取の場合である。

畜産物が農家から消費者に渡るまで

